

東 御 市 立 滋 野 小 学 校



(1) 学級数 14 クラス

(2) 児童数

男子 168 名 女子 137 名 計 305 名

(3) 職員数 30 名

(4) 学校紹介

本校は、北に烏帽子岳、三方ヶ峰の山並みを背負い、緑豊かな自然に囲まれた東御市の東の扇状地に位置する。地区内には、大石沢川と深沢川の2河川があり、千曲川に注いでいる。本校は、明治6年に芝生田・赤岩・片羽・中屋敷の4村で東漸寺を借りて、精業学校を開設したことから始まり、現在130年余りの歴史を誇る学校である。

滋野地区は、巨峰作り、そば作りなどが盛んであり、本校の総合的な学習の時間では、3年生が巨峰作りを、4年生がそば作りを行っている。また、「力士雷電」の生まれた地でもあることから、本校には、校庭に土俵があり、6月は相撲月間を設け、全校で相撲の学習に取り組んでいる。

保護者の方々は、学校の教育活動に大変協力的であり、PTA文庫の方々は、月に一度、朝の活動時間に、全クラスに足を運んでいただき、本の読み聞かせを行っていただいている。また、PTA育成部では、春には、「親子ふれあい遠足」を、秋には、「仲良しスポーツ大会」を開催して、子どもたちの健全な育成のためにご尽力をいただいている。

児童会活動も活発に行われ、秋には、学区内の保育園児

を本校に招き、「レインボー祭り」を盛大に行い、子ども同士の交流を深めている。



(5) 大会テーマの受け止めと研究のねらい

本校では、「思考力・表現力」「豊かな情操」「強靱な実行力」の育成を願って、学校教育目標「かしこく やさしく たくましく 自ら考え行動できる子ども」を掲げ、子どもに、この3つの力がバランスよくそなわることが、未来を切り拓く「生きる力」につながると考え、日々の教育活動を行っている。本年度は、全校研究テーマ「友とかかわりながら 自ら学ぶ子どもの育成」を設定し、次の2つの視点で研究に取り組んでいる。

①「子どもが課題を把握できるための支援」

②「友とかかわりながら、自分の考え方を高めていけるための支援」

この支援のあり方を明らかにすることで、本校の考える「かしこく やさしく たくましく 自ら考え行動できる子ども」の具現化をめざしていきたいと考えている。子どもが、学習課題を把握し、「自分の考えをもち」(個の確立)、その考えを「友だちに伝え」(表現力)、「お互いの考え方の違いがわかり」(判断力)、「意見交換をしながら考え方を高めていける」(思考力)ことで、自ら学ぶ力が育っていき、それが、「広い視野をもち、新しい文化を築く」ための基礎となるのではないかと考えている。

公開を予定している理科では、全校研究テーマを受け、「子どもが見通しをもって学習し、友と考えを深め合う理科学習は、どうあったらよいか」という研究テーマを設け

た。そして、次の4点に視点をあてて、研究を進めている。

【視点 1】子どもが課題を把握するための支援のあり方

【視点 2】実験や観察の結果をもとに考察ができるための支援のあり方

【視点 3】友とかかわりながら、自分の考えを深めていくための支援のあり方

【視点 4】視点 1 から 3 までの支援に有効だと思われる視聴覚機器の利用の仕方

（6）日常的な活用

①視聴覚機器の概要

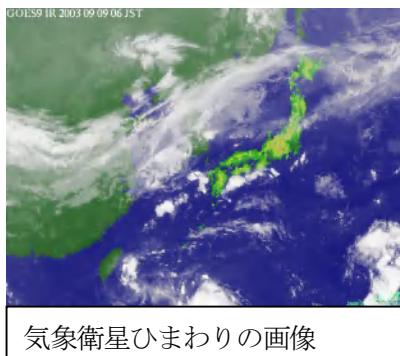
視聴覚機器として、本校には、パソコン教室にデスクトップのパソコン 40 台、プロジェクター3 台、実物投影機 3 台、デジタルカメラ 11 台、デジタルビデオカメラ 2 台等がある。デジタルカメラは、いつでも子どもが使えるようになっている。授業の中で、子どもたちが、実物投影機とプロジェクターを使って学習カードを映し出し、自分の考えを説明するやり方を、教師が指導し、子どもが自由に使いこなせるようにしていきたい。

②効果的な活用事例

【パソコン・プロジェクターを使った動画の提示】

○5 年生の理科「天気の変化」の授業より

雲の位置や低気圧の位置は、時間が異なる写真ではわかるが、時間がたつにつれてどのように動くかは、つかみづらい。教師は、気象衛星ひまわりの雲



の動きの分かる動画と天気図の低気圧の動きがわかる動画を子どもに見せた。子どもたちは、「すげー！！」「動いている！」と驚きを見せた。動画を使うことで、雲の動きや低気圧の動きを理解することができた。また、教師が、「低気圧のマークのところをずっと見ているんだよ」と見る観点を子どもに与えたことにより、子どもが、どこを見ればよいかわかり、低気圧の動きを確かめることが



できた。視聴覚機器を使うときには、子どもにどこを見ればよいか明確な観点を与えることの大切さがわかった。

（7）研究を推進してきたの現時点での課題

次の5点について、これから研究を深めていきたい。

①【事象提示について】

子どもの考え方とずれのある事象提示を行い、予想を立てた後、話し合わせ、何が問題であるのか明確にして、本時の目的意識が生まれるようにしたい。

②【実験方法を考えることについて】

子どもたちが、実験方法を自分たちで考えることができる手だてを考えていきたい。

③【考察について】

学習カードに、結果だけをまとめるのではなく、「こういう操作をしたから、こういう結果になった」と子どもたちが書けるような学び方を習得させたい。

③【友とのかかわりについて】

友とかかわるためには、子どもたちに、友だちとかかわる必要感がなければいけない。これを研究していきたい。

④【視聴覚機器について】

視聴覚機器は、「なるほど」と知識・理解に訴えるものと「すごい」と感性に訴えるものがある。何をねらって視聴覚機器を使うかははっきりとさせたい。

⑤【学習問題について】

「何が、どうなって、その現象を引き起こしているのか」を考えさせるような学習問題にしたい。